

志摩市 橋梁長寿命化修繕計画

(橋梁個別施設計画)

公表資料

令和6年2月

志摩市 建設部 建設整備課

1. 長寿命化修繕計画の目的

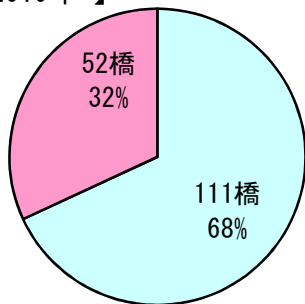
1) 背景

- 志摩市が管理する橋梁は、平成31年4月現在、全288橋（橋長2m以上）で、そのうち15m以上の橋梁は45橋、15m未満の橋梁は243橋である。
- 管理橋梁全288橋の内、建設年次の記録がない橋梁が125橋あり、建設年次が明確である163橋の内、現時点で建設後50年を経過した橋梁は52橋であるが、20年後には建設後50年を経過する橋梁が107橋と約66%を占め、橋梁の高齢化が進展していきます。
- これまでの橋梁の維持管理は、損傷が深刻な状態に陥った段階で、大規模な修繕や橋梁を架替えるなど、事後的に修繕を実施する対症療法型の手法がとられてきました。
- 今後、高齢化橋梁が急速に増加していくことから、従来同様の事後的な維持管理では維持管理に係る費用が膨大となり、利用者への安全性や信頼性を確保するための適切な維持管理の継続が困難となり、結果として道路サービスの低下に繋がることが予想されます。
- 平成26年度改定された道路法に法り全管理橋を5年毎に点検致します。

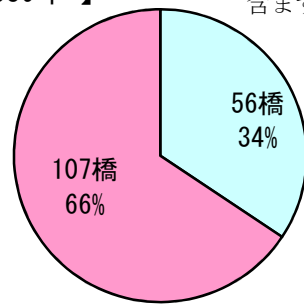
2) 目的

- 安全性や信頼性を確保した道路サービスの提供を目的に、長寿命化修繕計画を策定し、従来の事後的な維持管理から予防的な修繕および計画的な架替えを実施する、予防保全型へと管理手法の転換を図る。
- 長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の長寿命化並びに維持管理費用の縮減を図る。

【 2019年 】

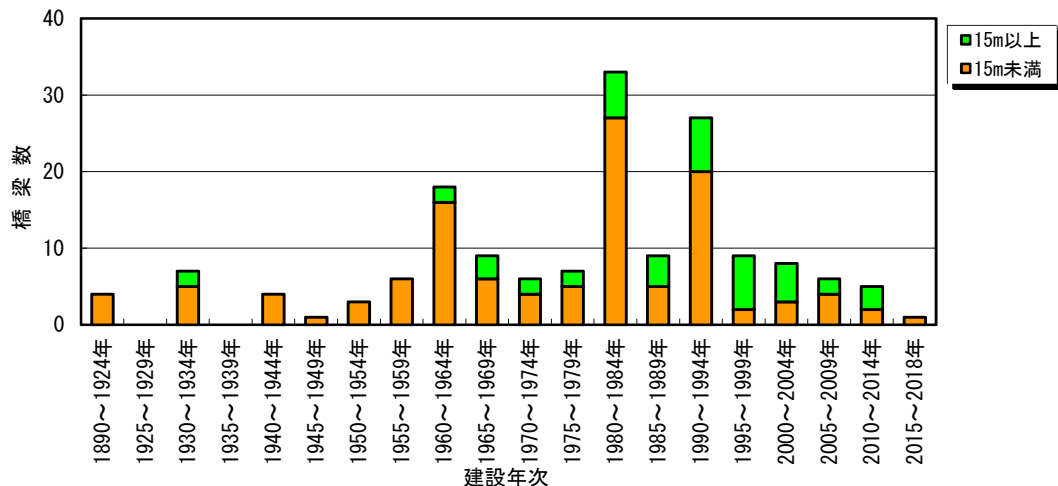


【 2039年 】



20年後

■ 建設後50年未満
■ 建設後50年以上



2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	橋 梁 数		
	15m以上	15m未満	合 計
全管理橋梁数	45	243	288
うち計画の対象橋梁数	45	243	288
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0
うち令和元年度計画策定橋梁数	45	243	288

○ 長寿命化修繕計画の対象：志摩市が管理する全ての橋梁を対象とする。

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

- 健全度の把握は、志摩市橋梁点検要領（案）に基づく点検を定期的を実施し、橋梁の損傷状況を踏まえ継続的に健全度の把握を行っていきます。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

- 橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール等の実施を徹底していきます。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

1) 長寿命化修繕計画の基本方針（対策の優先順位）

○ 予防保全型への転換

橋梁の損傷が深刻な状態に陥った段階で、大規模な修繕や架替えを実施する対症療法型の維持管理から、定期的に点検を実施して、損傷が深刻な状態に陥る前に修繕を実施する予防保全型へと維持管理手法の転換を図ることで、橋梁の寿命を延ばすことが可能となり、修繕および架替えに係る維持管理費用の縮減に努めていきます。

○ 対策の優先順位の考え方

事業の実施計画を策定するに当たり、対策の優先順位は、各橋梁の重要度、主要部材の健全性、架橋年次、橋梁規模から判断して総合的に評価します。

STEP. 1

主要4部材の健全度の最悪値と当該橋梁が属するグループから決まる優先順位



STEP. 2

主要4部材の健全度の最悪値と主要4部材の重要度から決まる優先順位



STEP. 3

架橋年次が新しい順



STEP. 4

橋長が長い順



技術者による総合的判断

区分		評価基準
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

小
大

▲健全性の評価内容

主要4部材の健全度の最悪値	グループ				
	A	B	C	D	E
	高 重要度 低				
I	-	-	-	-	-
II	11	12	13	14	15
III	6	7	8	9	10
IV	1	2	3	4	5

小
大

▲STEP. 1 グループと健全性

主要4部材の健全度の最悪値	主要4部材			
	主桁	床版	下部工躯体	支承本体
	高 重要度 低			
I	-	-	-	-
II	8	9	10	11
III	4	5	6	7
IV	1	2	3	※1

小
大

▲STEP. 2 主要部材と健全性

※ 計画的に定期点検を実施して、最新の点検結果に基づき適宜見直しを行っていきます。

2) 費用縮減に向けた短期的な取り組み

○ 集約化・撤去等による費用縮減

社会経済情勢や施設の利用状況の変化、施設周辺の道路の整備状況に応じて、橋梁の集約化・撤去および機能縮小などによる費用縮減に取り組むこととし、令和6年度までに、管理する橋梁に対し集約化・撤去等の検証を行います。

○ 新技術・新材料の活用

志摩市は海岸線が長く、沿岸部に位置する橋梁が多数存在することから、新技術・新材料の活用について検討し、令和6年度までに3～5橋の橋梁において新技術・新材料の活用により、修繕コスト約400万円の縮減を目標とします。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

1) 次回定期点検時期

- 定期点検とは、予め一定の期間を定めて行うもので、志摩市橋梁点検要領（案）に基づき、5年に1回の頻度で実施することを基本とします。

2) 修繕計画（計画期間）

- 今後50年間における補修対策を定めた「橋梁長寿命化修繕計画（令和2年3月）」に基づく、向こう10年間の対象橋梁における年度別の橋梁数と対策費は次の通りです。なお、本表に示す数値は修繕計画により想定したもので、事業実施に係る数値とは異なるため、適宜見直しを行っていきます。

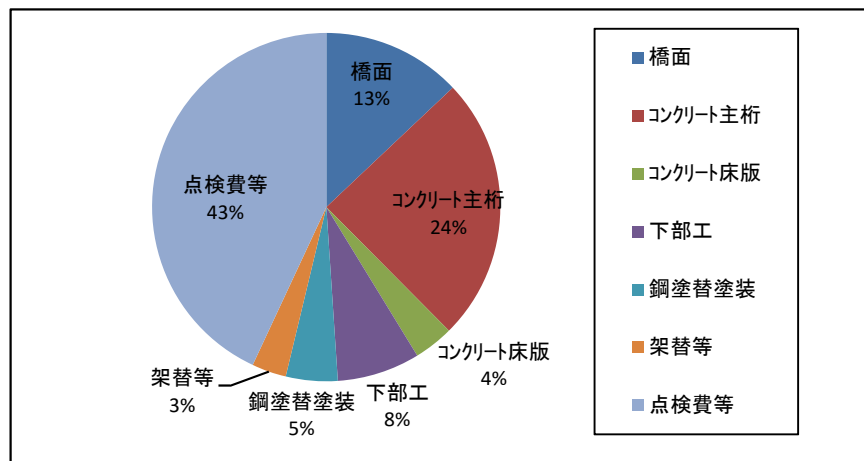
	令和2年度 計画	令和3年度 計画	令和4年度 計画	令和5年度 計画	令和6年度 計画
修繕+点検+長寿橋梁数	77	76	80	11	73
修繕対策費（千円）	37,331[5]	15,555[6]	15,357[8]	14,893[6]	17,305[4]
橋梁点検・長寿命化対策費(千円)	14,600[72]	14,000[70]	14,400[72]	10,800[5]	13,800[69]
合計（千円）	51,931	29,555	29,757	25,693	31,105

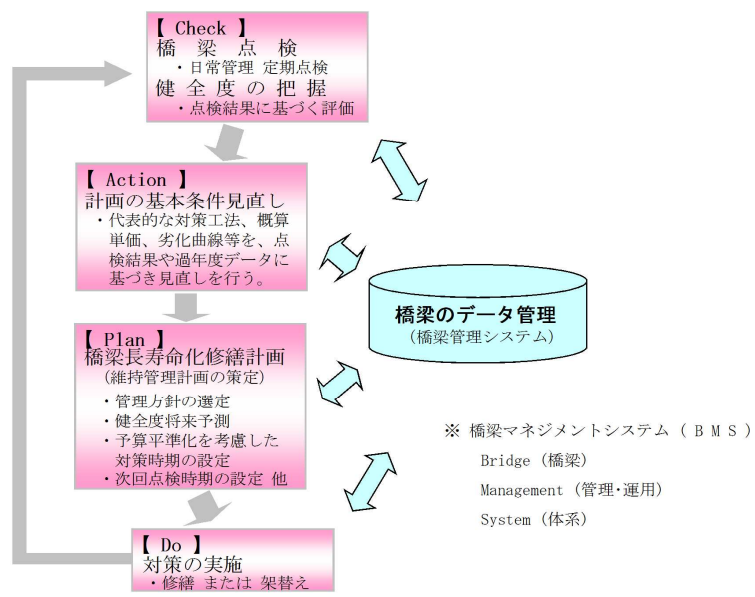
※ []内の値は、対象となる橋梁数（重複含む）である。

	令和7年度 計画	令和8年度 計画	令和9年度 計画	令和10年度 計画	令和11年度 計画
修繕+点検+長寿橋梁数	82	80	82	15	79
修繕対策費（千円）	13,510[10]	16,243[10]	15,959[10]	15,640[10]	14,453[10]
橋梁点検・長寿命化対策費(千円)	14,600[72]	14,000[70]	14,400[72]	10,800[5]	13,800[69]
合計（千円）	28,110	30,243	30,359	26,440	28,253

※ []内の値は、対象となる橋梁数（重複含む）である。

【 修繕等対策費の部材別内訳比率 】





▲橋梁マネジメントシステムのフロー図

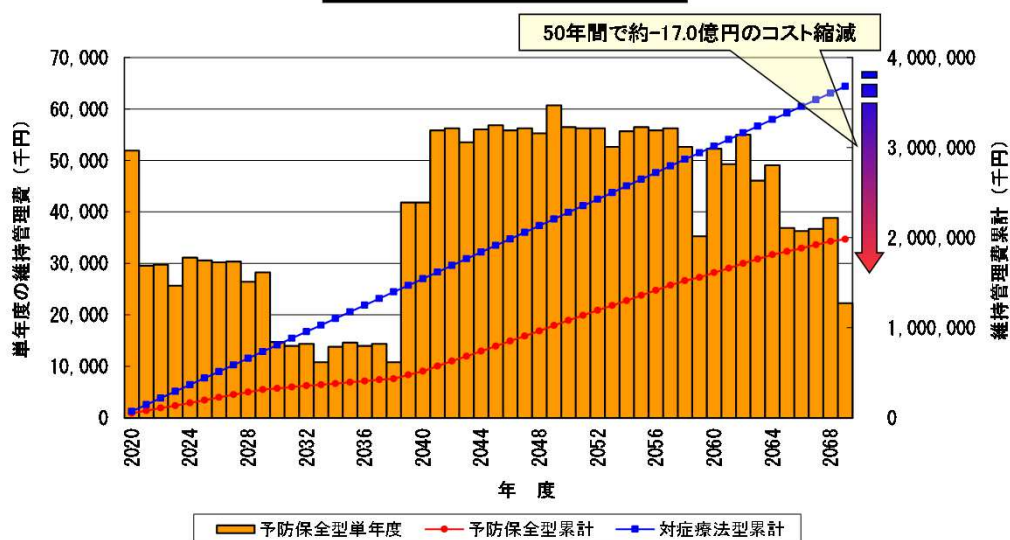
6. 長寿命化修繕計画による効果

1) 長寿命化修繕計画による効果

- 計画的に定期的な点検を実施することにより、橋梁の損傷が深刻化する前に早期に発見し修繕を実施することで、利用者への安全性と信頼性を確保した道路サービスが提供される。
- 長寿命化修繕計画により、予防的な維持管理を実施することで、橋梁の長寿命化やライフサイクルコストの縮減が図られる。
- 長寿命化修繕計画を策定する288橋について、予防保全的な修繕を実施して橋梁の寿命を延ばすことが可能となり、対症的に架替え（更新）を実施した場合との費用を比較した結果、今後50年間で約17.0億円のコスト縮減が見込まれます。

なお、コスト縮減額は、現時点での点検結果に基づき試算したもので、今後の財政状況や橋梁数の増減により、適宜見直しを行っていきます。

“ 橋梁長寿命化修繕計画による効果 ”



7. 老朽化の状況

1) 健全性の判定区分の割合

健全性	IV判定	III判定	II判定	I判定
橋梁数 (割合)	0橋 (0%)	17橋 (6%)	87橋 (30%)	184橋 (64%)

※1巡目点検：平成26年度～平成30年度

2) 修繕措置等の着手状況

修繕実施年度	IV判定	III判定	II判定
平成27年度	0橋	0橋	0橋
平成28年度	0橋	0橋	0橋
平成29年度	0橋	6橋	0橋
平成30年度	0橋	2橋	0橋
令和元年度	0橋	7橋	0橋
令和2年度	0橋	4橋	0橋
令和3年度	0橋	2橋	5橋
令和4年度	0橋	2橋	0橋

※令和5年3月時点の工事完了状況

8. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門的知識を有する者

1) 計画策定担当部署

三重県 志摩市 建設部 建設整備課 tel 0599-44-0304

2) 意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

国立大学法人 岐阜大学

情報連携統括本部

村上 茂之 教授